

「スマート農業の高度化に向けたデータ駆動型土壌メンテナンス」シンポジウム 開催要領

1 開催趣旨

世界人口は急増し、食料需要も増加する一方、気候変動による異常気象の頻発化や地政学リスクの高まりにより、食料安定供給へのリスクが高まっており、国内における農業生産の増大を図る必要があります。また、みどりの食料システム戦略において化学肥料の使用量を削減することが位置づけられたところですが、そのような中で、海外に依存している化学肥料原料について、安定的に輸入できないリスクが顕在化したところであり、化学肥料の使用量低減は待ったなしの課題となっております。

農業生産の増大と化学肥料の使用量低減を両立する持続的な農業生産を実現していくためには、農業生産の基礎となる土壌の管理を高度化することが不可欠です。農研機構では、内閣府の官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）の支援などにより、土壌の状況のセンシングやセンシングしたデータの AI 解析により土壌管理を高度化する「データ駆動型土壌メンテナンス」の研究に取り組んでおり、最新の研究状況を報告するとともに、関連する技術の実用化状況等もご紹介することで、「土壌メンテナンス」に関する理解を促進し、関連する研究や技術の現場実装を加速化するため、本シンポジウムを開催いたします。

2 開催日時：2023年11月21日（火）14：00～16：00

3 開催形式：Teams によるオンライン開催

4 参集範囲：研究機関、大学、農業生産者、行政機関、民間事業者、農業団体 等

5 申込方法：参加費無料、以下ウェブページより事前にお申込みください（参加申込締切：11/14）。
<https://events.teams.microsoft.com/event/fe72b8f1-a77b-439d-af8f-548ccaf939d5@48e01c30-7368-4a91-bd0c-bed2b71b2daf>

6 定 員：接続 PC 300 台（先着順）

7 主 催：農業・食品産業技術総合研究機構

8 プログラム：

1. 開催挨拶（14：00～14：05） 農研機構 理事 中川路哲男
2. 基調講演（14：05～14：25）
農研機構における土壌センシングの取り組み 農研機構農業環境研究部門 所長 山本勝利
3. 話題提供（14：25～15：40）
土壌メンテナンスに関する最近の研究成果・技術の実用化等に関する状況
 - （1）土壌センシング AI システムの開発（農研機構中日本農業研究センター グループ長 大野智史）
 - （2）土壌メンテナンス AI システムの開発（農研機構農業ロボティクス研究センター ユニット長 飯嶋渡）
 - （3）土壌病害診断技術ヘソディムによる農薬削減等への取り組み
（農研機構植物防疫研究部門 グループ長 吉田重信）
 - （4）センシング技術を利用した畑作地帯の精密農業
（株式会社スコーシャ 総合科学研究所 所長 丹羽勝久）
 - （5）データ駆動型土壌メンテナンスに対する農業現場からの期待
（農事組合法人たねっこ 代表理事 工藤修）
4. 質疑応答・総合討論（15：40～16：00）
5. 閉会

※ 講演者、講演内容は変更する場合があります。